

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	4	学校名	伊豆伊東高等学校（全日制）	校長名	池田 将章
------	---	-----	---------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	<p>確かな学力の定着とともに生徒個々の特性に応じた学力の向上</p> <p>学科、類型ごとの特色化</p>	<p>年2回の到達度テストで学習到達度が上昇した生徒60%以上【共（1年生）】 【旧伊東（2年生）】</p> <p>基礎力診断テスト2回の比較や経年比較からGTZが向上した生徒50%以上【旧城ヶ崎・商（2年生）】</p>	<p>63.3%（受験したテストが異なるため参考値）</p> <p>旧城ヶ崎高校 44%</p> <p>旧商業高校 45%</p>	A	<p>基礎学力の定着は、あらゆる進路を目指すうえで不可欠であることを踏まえ、生徒の実態を考慮しながら、粘り強く指導を続ける校内体制を整えていきたい。スタディサプリなどを利用し、個別最適化した学びを実現する環境が整ってきているため、その年間運用計画などを、学年部や教務課等と連携して樹立し、実施していく必要がある。また、模試の分析を進めることで、授業改善に資する情報を提供していきたい。</p>
		<p>1日の平均家庭学習時間が最低1時間以上の生徒割合が各学年80%以上【共】</p>	<p>1年：57.7%</p> <p>2年：53.2%</p> <p>3年：86.9%</p> <p>全体：65.9%</p>	C	<p>低学年において、家庭学習が不足している。各教科から適切な課題等を継続的に与える等により、家庭での学習習慣の定着を図ることが課題である。</p>
		<p>「授業がわかる」回答生徒割合75%以上【共】</p>	<p>1年：87.0%</p> <p>2年：88.1%</p> <p>3年：90.3%</p> <p>全体：88.4%</p>	A	<p>工夫を凝らした授業展開の結果、授業がわかると回答した生徒の割合が高く、一定の成果を上げることができた。今後も生徒の実態に合わせてながら、授業改善を引き続き実施していくことが課題である。</p>
		<p>受検実績が1人1回以上【普】</p> <p>卒業時検定取得2種目以上【商】</p> <p>放課後等検定補習実施【商】</p>	<p>1・2年生は英検IBAを全員受験している。</p> <p>現3年生100%達成。</p> <p>例年の1月に加え11月も実施した。</p>	A	<p>現3年生総合ビジネス科の生徒は、2年終了時に複数の検定試験の合格を果たしており、3年生になっても意欲的に取り組んでいる。また商業科教員による手厚いサポート体制も確立できた。今後は合格率を上げることが課題である。</p>
		<p>朝読書の時間設定【共】</p> <p>一人年3冊以上の読書【共】</p>	<p>適切に実施できた。</p> <p>全体37.2%</p>	B	<p>図書館の整備はほぼ完了することができたが、利用の促進をし、読書の習慣を身につけさせたい。</p>

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア		1月進研模試(国数英)で平均GTZがB1以上(1・2年生)、共通テストと2年2月マーク模試の得点比が2割増の生徒が80%以上(3年生) 「Pコース・特進行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上	1月模試の結果がリリースされるのは2月初旬、 91.1%	A	特進類型では、キャリアアップ研修や大学訪問などの行事だけではなく、特進集会、特進通信などを発行することで学習意識、進路意識の醸成を行うことができた。2年目になる来年度は、縦の連携も考えながら、より高いレベルを目指す雰囲気づくりに努めたい。
		「自分の好きなことや強みを理解して、進路を考えている」回答生徒割合80%以上 「教師が生徒の進路に応じた声掛けをしてくれる」回答生徒割合80%以上	85.7% 94.5%	A	年間を通じた進路学習や進路行事を通して、生徒に対して絶えず進路について考える機会を提供できたことが要因として考えられる。 面談等についても担任を中心に定期的実施しているクラスが多く、生徒に合わせた指導を行うことができています。次年度はこの雰囲気を維持しながら、生徒が具体的な学習習慣の改善や、様々な企画や探究などに挑戦できるように、分掌を超えて考えていきたい。
		全国レベルの大会やコンクール出場2件以上【普】	全国大会の出場1件(版画甲子園)	B	高文祭に向けて県の美術工芸展の対策を考えていきたい。 個人のコンクールに関しても全国レベルの高い受賞を目標としたい。
		全国レベルの大会出場2件以上【商】	ビジネスプラングランプリ優秀賞 温泉総選挙 2023 地方創生担当大臣賞	A	ビジネスプラングランプリでは、生徒や担当教員の尽力により、全国3位相当の成績を残すことができた。
		シラバス、指導案の作成、授業内容の検討【普】	令和6年度のシラバスの作成完了。それぞれの科目について、授業の年間計画は完了している。	A	実施に向けて、外部団体も含めての最終調整に入っている。来年度までにより具体的なものへとしていきたい。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア		シラバス、指導案の作成、授業内容の検討【商】	商業科で作成を行う。3年次必修科目として充実した内容での実施ができるよう科内でも情報共有する。	A	商業科を中心に作成を行った。科目としての実施は令和6年度となるため、どの教員が担当しても充実した内容となるよう引き続き検討していきたい。
イ	心身ともに健康的な学校生活 他者を理解し、思いやるしなやかな心の育成	「服装を正し、礼儀やマナーをわきまえて行動している」回答生徒割合 90%以上【共】 「地域や近所の人と会うとあいさつをしている」回答生徒割合 80%以上【共】 昇降口指導の実施【共】	多くの生徒が身なり、頭髪等のルールを守って生活している。96.8% 教員や部活動によるあいさつ運動を実施した。85.9% 年間を通じて登校時のあいさつ運動と身なり指導を実施した。	A	一部でルールを逸脱する生徒もいるので、乱れが広がらないように日常の声掛けや指導を継続していく必要がある。 あいさつに関しては個々を見るとまだまだと感ずるので爽やかな挨拶が飛び交う校風を目指したい。 昇降口指導では当番の教員以外にも、有志で早朝から立つ教員も多く、そういった姿勢が生徒に一定の安心感を与え、比較的落ち着いた校内の雰囲気となった。
		保健だより年12回発行【共】 薬物講座等年2回実施【共】 AED講習等への生徒参加【共】 朝食摂取率90%以上【共】 年間欠席日数10日以内、遅刻早退については年間合計日数10回以内の生徒の割合90%以上【共】	年12回発行 思春期講座3回、薬学講座1回実施 講習は実施したが生徒は参加していない。 朝食摂取率94.4% 欠席10日以内：89.8% 遅刻早退10回以内：95.4% (2学期末時点)	A	生徒の実態を踏まえた保健だよりを発行することができた。 アンケートや来室状況等の情報を活用し、講座に反映させた。 人数や実施時間の都合上、職員と生徒の講習を同時に開催することが困難であった。 一部生徒の朝食欠食の習慣化がみられる。保健だよりや掲示物で啓発していく。 長期休暇明けの健康観察強化週間の実施や欠席が続く生徒への関わりを継続する。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
イ		<p>学校生活サポートシートを活用した「生徒情報交換会」学期1回【共】</p> <p>巡回通級等において、配慮を要する生徒に対してSST,アサーショントレーニング月1回【共】</p> <p>「自分を理解し大切にしてくれる友がいる」回答生徒割合90%以上【共】</p> <p>「目標を持ち、充実した学校生活を送っている」回答生徒割合85%以上【共】</p> <p>「学校に自分の居場所があると感じる」回答生徒割合80%以上【共】</p>	<p>学校生活サポートシート等を活用し、学期に1回以上生徒情報交換会を実施した。</p> <p>巡回通級による指導を計19回実施した。</p> <p>行事を通じて旧三校の交流が深まった。</p> <p>94.4%</p> <p>88.5%</p> <p>90.6%</p>	A	<p>配慮を要する生徒について、職員で情報を共有することができた。個に応じた指導の一助となっているため、今後も継続する。</p> <p>生徒の教育的ニーズを理解し、個に応じたソーシャルスキルの習得に向けた支援をすることができた。</p> <p>学校行事等を通じて親交を深める生徒が多く見られた。一方で人間関係に悩みを抱える生徒も見受けられた。</p> <p>学習活動、課外活動、学校行事等で目標を持ち充実した学校生活を送れるよう声掛けを継続する。</p> <p>今後も多くの生徒にとって学校が安心、安全な場所であるように環境を整える。</p>
		<p>「共生・共育を通じて多様な価値観を受容する大切さがわかったと感じる」回答生徒割合70%以上【共】</p>	86.4%		A
ウ	キャリア教育の展開による生徒個々の進路実現	<p>進学か就職かを決めている割合80%以上(1年)【共】</p>	82.2%	A	<p>進路希望調査を年間で3回以上行い、総合的な探究の時間やLHRにおいて、生徒の進路希望に沿った内容を展開した。</p> <p>生徒が把握している学問・職種を広げる指導を心掛け、年間を通して計画的に実施しようと試みた。</p> <p>進路について、本格的に考えて行動することにより、希望の進路について悩むようになった生徒が一定数みられた。</p> <p>6月に提出する第一志望届などの提出に向けて、2年次後半から粘り強く進路についての声かけを行った結果である。</p>
		<p>興味のある学問・職種がある生徒の割合80%以上(1年)【共】</p>	87.0%		
		<p>進学の場合の校種や内容、就職の場合の職種を決めている割合80%以上(2年)【共】</p> <p>第一志望が確立されている割合80%以上(3年)【共】</p>	78.5%		
		<p>個人面談年間3回以上【共】</p>	61.6%	B	<p>長期休み明けを中心に生活面、進路面に関する面談を行った。</p> <p>クラスによって面談の回数に差がみられたため、面談週間の設定を徹底したい。</p>

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ウ		日本学生支援機構奨学金の情報提供 100%【共】	説明会を複数回実施した。	A	生徒並びに保護者向けに説明会を複数回実施することができた。また、説明会後の問い合わせにも丁寧に対応した。
		訪問後に報告書を作成し、進路課、各学年部主任、3年担任との情報共有【商】	積極的な訪問により求人数も増えた。	A	事前に就職希望者の希望職種を把握した上で開拓を行いたい。
		上位校の学校推薦型選抜等による合格者数増加【商】	昨年度からの継続3校に加え、総合型選抜を含めれば、新たに6校の検定等資格を活用した入試制度での四年制大学進学を実現した。	A	今後も資格等を活用した入試に挑戦する生徒に対しての指導を徹底していく必要がある。
		「土曜補講受講により学力の伸びを実感したと感じる」回答生徒割合 70%以上【普】	72.7%	A	多様な進路希望に合わせた企画を準備できた一方、教員の働き方の改善も同時に考えていく必要がある。外部団体、PTAとの連携をするなどして、進学状況や需要に合わせた企画を準備する必要がある。
エ	探究的な学びの展開 地域・保護者に愛され、信頼される学校づくり	探究委員会の設置【共】 「総合的な探究の時間の取組で地域活性化等自分たちの身近な課題解決に貢献したいと考えるようになった」回答生徒割合 80%以上【共】	年度当初、探究委員会を設置した。 目標の80%以上を達成することができなかった。77.4%	B	1年生では、社会を生き抜く力（未知の課題を解決する力）を身につけることと、未知の課題を解決するために必要な力を身に付けることを目的とし、年度に2回プロジェクトを実施することができた。来年度に向けて発展した内容で進めていきたい。 2、3年生では、地域の課題解決や進路探究等に関して、継続した探究の時間を設けることができた。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
エ		<p>県立大学出張講義5回【商】</p> <p>外郭団体主催事業に参加【商】</p> <p>伊東市活性化プラン発表【商】</p> <p>ビジネスプラングランプリに参加【商】</p> <p>県課題研究発表会に参加【商】</p>	<p>静岡県立大学出張講義5回実施。</p> <p>授業としては、1年生ビジネス基礎、3年生課題研究で参加。ビジネス基礎では大阪商業大学ビジネスアイデア甲子園で学校賞受賞。また静岡県商業教育研究会主催のビジネスリーダー育成事業に2年生1名参加し、修了見込。</p> <p>1/31に実施する。</p> <p>参加。1班はファイナリストに選出。</p> <p>1/10に校内で実施後、代表班を選出し参加させる。</p>	A	<p>静岡県立大学との連携を継続できた。来年度以降も継続することを双方で確認できている。</p> <p>継続的に取り組んでいるものが多いため、新たな取り組みも取り入れていくことも更なる深化につながるかもしれない。</p> <p>今年度は並置校となったため、1名での参加となったが、参加生徒に話を聴く中で、成長が感じられる場面があった。これを校内でどう還元していくか、進路活動にどうつなげていくかが課題である。</p> <p>伊東市長ほか関係各所の担当者をお招きして実施する。</p> <p>先述のとおり、全国3位相当の成績を残せた。</p> <p>5講座すべてで発表会を行い、商業教育を学ぶ下級生にとっても良い機会となった。県大会には代表1班が参加することとなった。</p>
		HPや公式Twitter 随時更新【共】	学校行事等に合わせて、学校HP、SNS等に1回以上投稿した。手に取る目に留まる学校案内を作成することができた。	A	SNS等を活用した広報活動はできたと思うが、担当者が変わった場合の対応が不可欠であると感じた。また、生成AIを活用した事例など、新しい情報活用、情報発信を考える必要があるため、教職員に向けた研修や伝達を継続的に行いたい。
		「参加してよかった」回答参加者割合 80%以上【共】	1日体験入学 99% オープンスクール 100%	A	「授業が楽しかった」「生徒が主に説明していて校風が知れた」など、開校初年度であったが、授業参観、1日体験入学、オープンスクールを円滑に実施することができた。より多くの人に参加してもらえるよう、時間の調整及び内容の充実化を図ることが今後の課題である。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
エ		保護者の緊急メール加入率 100%【共】	ほぼ全員の保護者が加入し、緊急連絡・情報提供・欠席連絡等で有効に活用している。	A	年度の早い段階で保護者の全員加入を促し、情報提供の徹底を図る。「X」・「Instagram」・「YouTube」で日常の様子は発信されているので、連絡・重要情報の提供に特化して使用したい。
オ	特別活動、部活動の活性化	リーダー研修会の実施【共】	2学期に1泊2日でリーダー研修会を実施した。	A	学校生活に関する課題を共有することで連帯感が生まれ、伊豆伊東高校を良い学校にしようという話し合いが活発に行われた。次年度以降も継続したい。
		「各行事に満足した」回答生徒割合 80%以上【共】	碧春祭、球技大会等の行事での満足感が高かった。93.0%	A	生徒会執行委員会に所属している生徒を中心に、生徒自身が主体となつて各行事の運営を行うことができた。また、多くの生徒が積極的に行事に参加しようという姿勢が見られた。
		「修学旅行に満足した」回答生徒割合 80%以上【共】	97.8%	A	平和学習、国際通り班別研修、民泊などの内容の満足度が高かった。平和学習の行先・滞在時間等は改善の余地があるので、引継ぎをしっかりと行いたい。
		部活動加入率 100%【共(1年生)】 「部活動に積極的に参加し充実感を得ている」回答生徒割合 75%以上【共】 「部活動下校午後7時」(原則)の徹底【共】	1年生は部活動に全員加入した。 78.3% 概ね下校時間を守ることができた。	A	入学時の部活動選択は学校生活において重要なので、前向きに選択できるよう指導する。 2、3年生は任意加入なので途中退部せず3年間やり切れるよう声掛けをする。 部活動終了後のバスの本数が少なく混雑が見受けられるので改善したい。
		1部活動1貢献活動【共】	1月末までに延べ150回を超えるボランティア活動を実施した。	A	生徒会、部活動を中心に積極的にボランティア活動に取り組んだ。
カ	教職員の資質・能力の育成と協力体制、情報化、業務改善	校内研修年5回以上実施【共】 授業見学週間年2回設定【共】	校内研修6回・チーム研修2回を実施した。 5月と11月に授業研究を設定した。	A	悉皆研修者対象のチーム研修や、全教員対象の校内研修、授業見学週間、教育実習生の指導を通して、全教職員が本校の現状について同じ認識を持つことができた。「主体的に学習に取り組む態度の評価」を、生徒個々の学力向上に結び付く授業改善や三観点における評価になるよう整え、その質を高めつつ全教員で協働的な組織体制・信頼体制を構築できるよう研修を進めていくことが課題である。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
カ		ICTや一人一台端末を日常的に活用している」回答教員割合 80%以上 「主体的・対話的で深い学びをめざす授業づくりに日常的に取り組んでいる」回答教員割合 95%以上 【共】 「一人一台端末の活用が有意義だった」回答1、2年生割合 70%以上 【共】	ほとんどの教員が日常からICTを活用できた。83.6% 目標の95%以上は達成できなかった。85.7% 目標の70%以上を達成することができた。 87.3%	B	ICT環境も整い、大多数の教員が日常的に活用できた。今後研修を積むことで、更にICTが身近になると思われる 全く対応していない教員はなく、日常的には対応していない教員を含めると98%となる。今後は研修を通して、自然と授業づくりができる環境を整える。 一人一台端末の活用がさらに活発になるように情報機器の環境整備や教職員向けの研修を行いたい。
		「信頼できる先生がいる」回答生徒割合 75%以上 【共】	82.8%	A	生徒を中心とした指導が徹底されている証である。今後は、更に信頼度が高まる丁寧な指導や支援を心がける。
		コンプライアンス研修を含めた職員研修を月1回以上実施 【共】	月1回以上の研修を達成した。	A	研修を通じて「他人事」から「自分事」へと意識改革ができた。今後も不祥事根絶研修を継続して続ける。
		教職員の夏季休暇完全取得 100% 【共】 「平均して週1回以上は定時退庁できた」回答教員割合 100% 【共】	55名中1名の教員が完全取得できなかった。98.2% 目標の約半数しか達成できなかった。 51.1%	C	部活動や3年生の進路指導に時間を割いて対応した結果である。更なるサービス管理を徹底していく。 働き方改革を含め、喫緊に対応せねばならない課題である。1月から退庁時間の設定をして対応した。
		「職員室をはじめ新高校が働きやすい環境になるよう留意した」回答教員割合 90% 【共】	目標まで少し届かなかった。 87.8%	B	全く対応していない教員は若干名であり、あまりあてはまらない教員を含めると98%となる。今後職員安全衛生委員会と協力して、更なる職場環境に取り組む。
キ	安心・安全で快適な教育環境の整備	危機管理マニュアルの浸透 【共】 緊急避難経路の確認 【共】 定期的な施設設備の安全点検実施 【共】 AED講習の実施 【共】 校内、学校周辺の危険箇所の確認学期1回 【共】	県の指示通りDBにアップした。 訓練を通して確認できた。 必要な設備、備品の点検、確認を実施した。 8月末に職員対象の講習を実施した。 学期に1回安全点検を実施した。	A	まだ開校初年度なので、毎年改善を加えていきたい まだ開校初年度なので、毎年改善を加えていきたい 引き続き随時点検を実施し、安全性と危機管理意識を高める。 日本赤十字社の指導員を派遣し実施した。緊急時の対応について確認する機会となった。 大きな危険箇所は報告されなかった。今後も継続して行い、危機回避に努める。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
キ		防災教育連絡会議への参加【共】 地域防災訓練参加率 90%以上【共】	開催できなかった 県総合防災訓練か地域防災訓練どちらかに参加した生徒の割合 37%	C	伊東市との覚書が未確定で、吉田区との打ち合わせ等もできなかった。 訓練当日地震発生のため中止になった市町が多かった。
		全校防災訓練の実施【共】 消火訓練等、教職員向け実践的防災訓練の実施【共】	5月に実施した。 日程過多のため実施できなかった。	C	円滑に実施できた。開校間もない時期の実施だったので、今後より良い避難経路が無いか検討する 来年度は実施日程を検討する。
		一足制となる新校舎の美化意識を高め、清掃活動を徹底する。【共】 ゴミ分別の推進【共】	清掃に必要な用具の管理、清掃の手順と注意事項の周知を行った。 各クラスへのごみの処理の仕方の掲示物を見やすく、わかりやすくまとめた。	A	余裕を持った用具や備品の手配と、美化委員による美化意識の啓発を積極的に行っていく。 不適切なごみ処理事案について現状把握をし、教職員全体で共有、都度生徒へ注意をしていく。
ク	確実に効果的な学校事務執行	開校初年度における煩雑な業務が想定されるが、情報共有により、影響を最小限にとどめる。【共】	職員室と連携を図り適切で計画的な予算執行が実施できた。	A	開校1年目で非常に煩雑で大量の業務に追われ、監査・検査等は問題なく終了したが、効果的な予算執行については、検討の余地がある。